

来年の米作りは、秋の土づくりから！

◎高品質・良食味米の安定生産には「土づくり」が重要です

1 稲わらの秋すき込み

- ・稲わらの秋すき込みは、堆肥と同等の土づくり効果が期待できます。
- ・すき込みの時期は、腐熟の促進や温室効果ガスであるメタンの発生を抑制するため、地温の高い10月中旬までに完了しましょう。
- ・すき込みの耕深は、作業能率や腐熟促進等を考慮して、5～10cmの浅うちとしましょう。

2 土づくり資材や堆肥の施用

- ・令和7年の土壌分析結果では、ケイ酸、鉄ともに目標値を上回った地点は少なく、調査地点の約9割以上のほ場でケイ酸、7割以上のほ場で鉄が不足しています。
- ・土壌分析に基づいて、不足している成分を補うために土づくり肥料や堆肥を施用しましょう。

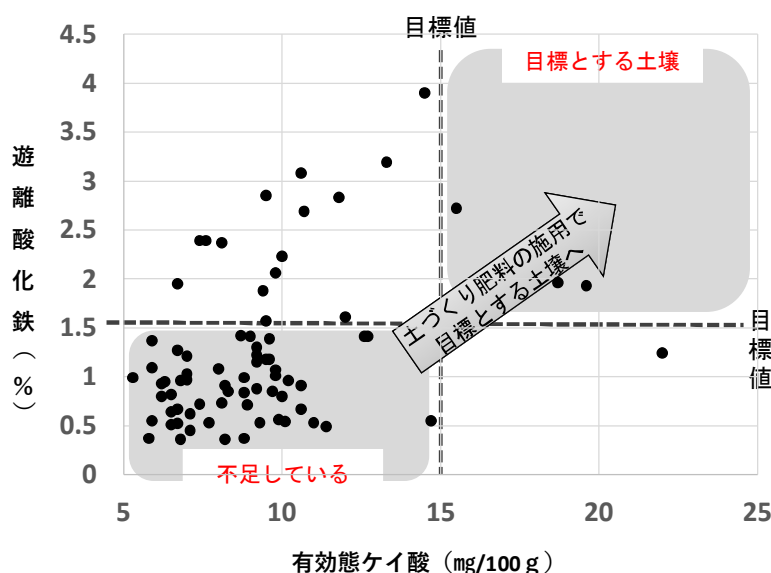


図 令和7年度 土壌分析結果 (JA魚沼、75点)

ケイ酸、鉄の施用で目標とする土壌を目指しましょう！



ケイ酸を含む土づくり肥料の例

越後の輝きソイル米スター、魚沼ロマンソイルキーパー、魚沼ロマンアイアンスター、アイアン米スター、シリカリュウ17、カキテツ など

【QRコードを読み取り稲作情報を確認しよう】

JA魚沼 北魚沼地区
営農情報 (LINE)
はこちら→



魚沼農業普及指導
センターHP稲作情報
はこちら→



お問い合わせ先

J A 魚沼北魚沼基幹営農センター
025-793-1770

魚沼農業普及指導センター
025-792-1309

農作物の盗難に注意しましょう。ほ場の侵入防止対策の実施や施設は必ず施錠しましょう。